

平成 2 9 年 度

大阪市立大学

学術情報総合センター

事業年報

平成 30 年 10 月

ご あ い さ つ

大阪市立大学学術情報総合センターは大学図書館機能と情報処理・ネットワーク機能を一体的に統合した組織として平成8年10月に開設されました。

開設後22年の間に、情報通信技術のめざましい発展に伴い、教育・研究活動に不可欠な学術情報を取り巻く環境は大きく変化しました。

近年、我が国においては、学術情報のオープンアクセス、オープンデータの取組みに関して研究成果の利活用を促進する観点から、論文のオープンアクセスが推進されています。その一連の取組みとしてオープンアクセス（情報公開）については、JPCOAR（オープンアクセスリポジトリ推進協会）が発足し、平成29年4月より本格的に活動を開始しております。さらに国内外での電子書籍の急速な普及は、利便性や価格面の観点から個人向けのみならず大学図書館をも視野に入れ発展しております。

そこで、本学におきましても、オープンアクセス方針を策定し、本学において生産された研究成果を広く学内外に公開することで、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに機関リポジトリOCURAの利用促進を図ってまいりました。

また、大学教育においても反転授業やアクティブラーニングといった新たな授業スタイルが導入されつつあり、情報通信技術（ICT）の提供や活用が必要不可欠なものとなっております。

平成29年度は、本館6階に学生のみならず研究者を含めた知的交流スペースであるアカデミックコモンズを開設し、本学の学修相談所であるOCUラーニングセンターの出張所を設置しました。また、1階の談話・ビジュアルコーナーをよりオープンな研究スペースである「ツクルマ」に改修することで、“学術・文化交流の拠点”としての当センターの役割を強化し、新たな学習スタイルに適応しております。

最後になりましたが、今後は公立大学法人大阪府立大学との統合という大きな事業が控えております。関係各位におかれましては、今後とも当センターの運営にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年 10月

大阪市立大学学術情報総合センター
所長 山崎 孝史

目 次

1. 平成29年度の主な動き	1
2. 日誌	
(1)行事	3
(2)各種会議	3
(3)主な訪問者	4
3. 主な刊行物	6
4. ガイダンス	
(1)ライブラリーガイダンス	7
(2)医学分館ライブラリーガイダンス	8
(3)情報処理システムガイダンス	8
5. サービス対象者数	9
6. 地域貢献	9
7. 決算	10
8. 図書部門	
(1)資料受入状況	11
(2)利用状況	20
(3)レファレンスサービス利用状況	23
(4)相互連携	24
(5)公開データベース利用状況	25
(6)電子リソース利用状況	26
9. 情報処理部門	
教育研究用情報処理システム	28
10. 教育・研究部門	
(1)教員組織	32
(2)教育	32
(3)研究	33
(4)基盤支援	34
11. センターの組織	
(1)管理機構図	35
(2)運営委員会委員	36
(3)事務組織	37
12. 施設概要	38